



国葬反対の声日本中に

法的根拠もない安倍元総理の国葬には多くの人が疑問を呈し、反対の声は全国に広がり、各地で行動が取り組まれ、流山でも様々な団体が抗議行動。「九条の会・流山」は他団体とともに9月25日南流山で宣伝しました。



9月25日南流山駅

- ◆友人代表の菅前総理は ある人に言わせると「恋文か」と思わせる情緒的な言葉で安倍氏を讃えました。
- ◆安倍内閣の官房長官として、さらに総理大臣として、無表情に意味のない記者会見を繰り返してきた菅氏にこんな文章が書けるのか、という意外性が受けたという。
- ◆菅氏は明治藩閥内閣の重鎮山県有朋の歌を引用。民主主義を敵視し国会開設後も国民から選出された国会によって国政が動かされることのないよう官僚制や枢密院などで専制政治を守ろうとした人物。
- ◆何よりも安倍氏の業績を讃えたのは「困難な課題をやり遂げたこと」その課題とは国民の反対が強く、長年実現できなかった野望ばかり。安保法制、共謀罪、消費税。国民をだまし、ゴマカシて実現した実績を讃えた。
- ◆国葬の経費は未だ不明。当初5.5億円としていたが批判を受け、16億余円と修正。しかし、空前の警備の総費用など明示されないまま。英国女王の葬儀より高い？
- ◆選挙運動中の「元総理暗殺」という衝撃的な事件に「暴力による言論封殺」と民主主義擁護の大義を掲げてみたが、実は原因は反社会的オカルト集団と安倍氏を中心とした自民党のドス黒い関係の根深さであることが次々に明るみに出て、一気に守勢に回らざるを得なくなった。
- ◆自民党内部からの突き上げで国葬を決めたが、安倍氏称賛の旗色が悪くなると国葬の理由は長期政権や弔問外交などに移った。しかしG7のトップは一人も来ず、来日した首脳ともたった15分ずつの会見。これで「安倍氏的外交実績を受け継ぎ交流を深めた」？

旧統一教会と自民党 どこまで続くぬかるみぞ

安倍元総理は調査除外としてきたが、衆院議長の細田博之氏もそうだ。氏は統一教会との深いつながりがあることが判明し追及されてきた。党籍離脱とはいえ自民党から選ばれて国権の最高機関とされる国会の衆院議長を務めている身分だ。それが反社会的な外国勢力の影響を受けながら、仕事をしているとなると大問題だ。

だんまりを続けていた細田氏は9月30日文書を公表したが、会見はなし。しかもその内容は具体的な事実に対する言及はなく、今後は「関係をもたないよう、適切に対応してまいりたい」というだけ。徹底して真実を追及しなければ国民は納得しない。

防衛省 女性自衛隊員への性暴力を謝罪

昨年7月矢日別演習場でバーベキュー形式の宴会が開かれ、女性隊員の五ノ井さんは酔った先輩の男性隊員に呼び止められ、いきなりお姫様抱っこされ、近くの喫煙所まで連れて行かれた。その後も同男性は彼女に迫って暴行し、女性隊員専用のテントにまで侵入するなどの犯行を繰り返した。彼女の訴えに中隊長は上につたえなかった。その後刑務隊も動き聴取が始まったが、男性は否認し続け、最近になってようやく認めた。防衛省は一年後の9月29日、行為を認め、本人に謝罪した。

沖縄 那覇市長選に翁長氏

復帰50年の今年、先の県知事選では現職の玉城デニー氏が自公推薦の佐喜真淳氏に6万5千票の大差をつけて再選された。辺野古新基地反対は確固とした沖縄の世論だ。

続く那覇市長選で翁長前知事の次男雄治氏が「オール沖縄」が推し立候補表明。子育て支援政策を最重要課題に挙げた上で、辺野古新基地建設や基地問題と振興予算が事実上リンクしている現状についても「基地か経済か問われていること自体が政治の墮落だ」と強調した。

戦争準備、着々と！

土地規制法9月20日全面施行されました。全国の米軍、自衛隊基地などの周辺の住民、土地利用を規制指定し監視下におくものです。政府は今年度末までに600か所指定の予定です。国同士の友好を深めるところか緊張を高めるばかりだと思います。平和を壊すのは誰か私たち国民の心眼が問われているのではないのでしょうか。 三原

改めて戦争を考えるために

学生、戦時下の強制労働―「私の学徒勤労動員日記」
(昭和20年) (後平井) 鈴木光治 (最終回)

8月15日 終戦を躍り上げて喜ぶ

なんと嬉しいことだろう。戦争が終わった。おれはあまり喜びすぎて躍りあがって、父にとがめられてしまった。とに角、無性に嬉しかった。じっとしておられないのである。だが父も母も深刻な顔をしているので少々遠慮した。どうして悲しそうなんだろう。負けたことなのか。おれたちが「勝つ勝つ」と言われてあざむかれて来たことか。だまされてきたおれたちはあわれだと確かに思う。しかし負けたことが、おれは悲しいとは思えない。負けたおかげで戦争は終わった。もう空襲がない。艦砲射撃もない。逃げ回らなくてもよい。勤労動員も終わりだ。おれは生き残ることができた。父も妹も栄養失調になりかかっている青い顔で目をギョロリとしているけど、とに角生きている。よかった。滅茶苦茶な戦争を導いてきた職業軍人の時代はすぎた。彼等は口を開けば、天皇のためだと言いながら、主人の威を借りた番犬よろしく吠えさせて、多くの人々を苦しめ、いばりくさったものだ。その上、自分たちの力で間に合わなくなると、次々と国民を徴兵し軍人に仕上げ、殺人商売に強制的に従事させてしまった。

1億玉砕も玉砕してしまった。のろましい言葉だ。この言葉のために純真な人々の生命が失われていった。南の果てに、北の果てに、その言葉は伝染病のごとくに猛威を振るった。だからもうお前は決して使われることはないだろう。お前に相応しい墓場で永遠に眠れ。ついに神風は吹かなかった。代って数多くの青年達が神風特攻隊の名のもとにこの世を去った。聖戦と信じて彼らは死んでいった。疑うこともなく天皇のために散っていった。この特攻隊という名の人間爆弾こそ、この戦争の悲劇の象徴である。思えば残酷なことであった。将来ある人間の尊い命を鉄や火薬と同時に炸裂させてしまったとは。何のために。恐ろしい戦争は終わった。それを素直に喜ぶべきだ。大いに笑うべきだ。俺たち国民の愚かさを。その喜びと笑いがこの国を覆う時、日本は救われる。もし負けた悲しみに未来を生きるとしたら。勝つためにまた戦わなくてはならぬ。俺はこの戦いで学校では学べぬ様々なことを学んだ。戦争は罪悪であること、国民を欺いている味方は敵以上に恐ろしいこと。戦争で儲ける人もいること。戦争の中で人間は墮落し動物の本性を現すことなどを。そして他ならぬ俺自身が戦争の中でいかに貪欲で冷酷で非人間的であったかを。

戦いは終わった。俺は生きている。まだ若い。これから力いっぱい生きよう。死ねという教えはまちがっている。人は必ず死ぬ。いつ死ぬかわからない。だから死を急ぐ必要などない。生きるのだ。精一杯生きるのだ。
(終り)

プーチン大統領 領土拡張を公言

ロシアのプーチン大統領は8年前のクリミヤに続き、ウクライナのドンバス地域4州を併合しようとしています。力による領土拡大を禁じた国連憲章に明確に違反し「ロシア軍は新たな領土を獲得していく」と9月17日公言。

ロシア系住民の多い地域をウクライナから独立宣言させ、そこに作ったカイル政権が住民投票を実施して多数の意見でロシアとの併合を希望したためこれを受け入れるというのです。

しかしこの住民投票なるものは2重3重に不公正なもので、とても住民の意思を反映したなどと言えるものではありません。銃を持ったロシア兵が住宅に押し入って投票させたり、街頭で投票、記入済みの投票用紙が渡されるなどが伝えられているばかりか、そもそも戦闘中の地域の住民投票などあり得ないことです。また多くのウクライナ国民が国内外に避難しており、住宅も市役所も破壊されている中で住民投票がまともに行われるはずがありません。

ウクライナのゼレンスキー大統領の言う通り、あまりに見え透いた「茶番劇」です。

さらなる悲劇は、こうしてロシアに組み込まれた場合、ロシア国民として徴兵され、祖国ウクライナと戦わされるということが始まっています。

ロシア軍の士気が低下し、武器の供給もままならなくなってきており、各地で敗北、撤退が起こっています。ロシアでは徴兵令一歩手前の「部分動員」が始まったため、他人ごとだと思っていた戦争が自分に迫ってきたことを知って反対運動が公然と起こり始めており、隣国への逃避行が大規模に起こっていると報道されています。

こうしたやり方をナチスがやってきた方法だなどという報道がされていますが、日本がかつて「満州国」をでっち上げて事実上日本領として支配した歴史を忘れてはならないでしょう。



9月22日動員を逃れて隣国ジョージアへ行く人の列

おおたかの森駅宣伝と署名

10月9日(日)15:30~16:30

~~~~~

カンパはこちらの郵便振替口座へ  
00130-5-464735 口座名 九条の会・流山